



神経内分泌腫瘍(NET)に対する新しい治療 -ルタテラ- が 本年9月より当院で始まりました！

神経内分泌腫瘍(Neuroendocrine Neoplasm; NET)とは？

神経内分泌細胞から発生する腫瘍の総称で、体の中のどこからでも発生する可能性があります。「稀少疾患」と呼ばれる稀な病気ですが、近年の診断技術の向上や疾患概念の普及によりNETの患者数は増加傾向を示しています。画像所見、悪性度、臨床的症状/経過など、多種多様は病態を呈するのが特徴で、その診療には専門的な知識が必要になります。

神経内分泌腫瘍の治療は？

NETの治療の大原則は「外科的な切除」ですが、切除不能なNETに対してはホルモン療法、全身化学療法、肝局所治療（ラジオ波/TACE）、放射性核種療法（PRRT）などを組み合わせた集学的治療を行います。当院では、複数の診療科・職種で構成された「NET診療チーム」を中心に、NET患者さん個々の病状に応じた最適な治療法を提供しています。

ペプチド受容体放射性核種療法（PRRT；ルタテラ[®]）とは？

PRRTは、NET細胞に高い頻度で発現している「ソマトスタチン受容体」に取り込まれる物質に放射線を放出する物質（ルテチウム-177）を結合させた薬剤（ルタテラ）を点滴で投与し、腫瘍細胞の中から治療用の放射線を放出することで腫瘍の進行を食い止めます。（下記イラスト参照）体外から照射する通常の放射線治療とは異なり、全身に多発する病変があっても安全に治療できるのが最大の利点です。8週間おきに計4回の投与を行い、治療終了までに約半年かかります。治療後1-2日は体内から放出される放射線に対する隔離が必要になり、PRRTを行うには特別な措置を施した病室が必要ですが、2024年9月より当院でもPRRT治療が可能になりました！（福岡県では3施設目）

2024年7月にはNETの診療ガイドラインが改訂され、悪性度・進行度の高いNETには1次治療としてPRRTが推奨されるようになりました。今後ますます需要の高まるPRRTの提供を通して、当院は「九州唯一のがん専門病院」としてNETをはじめとする稀少悪性疾患の診療に今後も院内一丸となって取り組んでいきます。

神経内分泌腫瘍の新治療の開始に伴い

NET外来を開設しました！

月～金 8：30-11：00

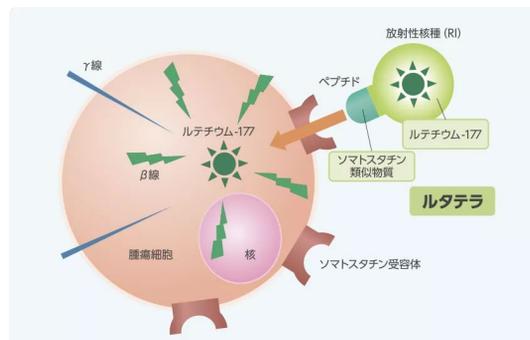
担当：消化器・肝胆膵内科 李 倫學 医師
消化管・腫瘍内科 薦田 正人 医師

* 受診方法は当院ホームページをご覧ください

★ NET/PRRTについてのお問い合わせ先

九州がんセンター・地域医療連携室まで

TEL 092-542-8532



出典：ノバルティスファーマ HPより
<https://www.product.gan-kisho.novartis.co.jp/lutathera/about/treatment>

